

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **64** 平成29年
(2017) 7月

CONTENTS

- ①～② 平成29年度研究体制とミッション
- ②～③ 21世紀文明シンポジウム「減災と創造的復興～熊本地震の経験と教訓を踏まえて」を開催
- ④ HAT神戸掲示板
- ⑤ 情報ひろば
- ⑥～⑧ 人と防災未来センター MiRAi

平成29年度 研究体制とミッション

当機構の平成29年度研究体制をご紹介します。研究調査部では、防災・減災の社会づくりに資するとともに、21世紀文明のあり方について研究し、国内外の政策形成に情報発信すべく、研究調査の推進を図っていきます。

研究テーマと担当研究員

【自主研究テーマ】

東日本大震災復興の総合的検証

高森 順子 研究員

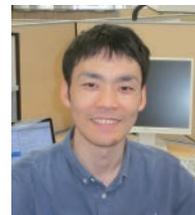
東日本大震災の「集中復興期間」である5年間の復興プロセスを、阪神・淡路大震災における復興検証の実績を参考にしつつ総合的に検証し、被災地の復興上の課題やその解決方策を明らかにする。それによって、東日本大震災被災地の円滑な復興はもとより、来るべき大災害から国家や地域社会を衰退に陥らせないための創造的復興の実現に向けた政策提言を行う。



南海トラフ地震に対する復興のグランドデザインと事前復興計画のあり方

磯村 和樹 研究員

発生すれば国家の衰退も危惧される南海トラフ地震に対応するため、被災地における復興目標とその道筋を盛り込んだ復興グランドデザインおよびその実現のための具体的な取り組みや手順等を明示した事前復興計画のあり方について提言を行う。



地域コミュニティの防災力向上 ～インクルーシブな地域防災へ～

石塚 裕子 主任研究員

大規模な災害が多発し、公助による災害対応の限界が明らかになり、自助、共助の重要性が再認識されている。地域コミュニティ力の低下が危惧される中で、地域個性や地域に住み、行き交う人々の多様性に配慮した、インクルーシブな防災とはいかにあるべきか、理論、実践知の両面から検討し、地域コミュニティの防災力向上を目指した実践的な政策提言を導出する。



少子高齢化社会の制度設計～年齢で人生を区別しない社会並びに子どもを生き育てやすい社会の実現に向けて～

大森 信夫 研究員

人口減少と少子高齢化時代が急速に進む中、「年齢で決める見せかけの平等ではなく、実態に沿って、高齢者でも健康で働く意志のある人には仕事がある社会」また、少子化対策として「子どもを生き育てやすい社会」そういう新しい社会の実現に向けて、新たな制度の枠組みについて政策提言を行う。



【県要請研究テーマ】

女性が活躍する社会づくりのための環境整備のあり方

「男女がともに、いつでも、どこでも、いきいきと生活できる社会」の実現を図るためには、女性の活躍の一層の推進が不可欠であるが、兵庫県の女性の就業率は全国と比較すると低い。このため、就業における女性活躍、能力発揮に資する環境整備や方策につなげるべく、県内の女性の就業を取り巻く環境、意識等について調査・分析し、課題等を明らかにする。

持続可能なコミュニティ形成に向けた地域資源の活用方策の検討
～多世代と共創する多自然地域の豊かな暮らし実現の仕組みづくり～

少子・高齢化と人口減少の進展に伴い、人口流出の拡大が地域資金の域外流出や、資産（住宅、農地、山林）の維持活用の困難さを生じさせている。このため、地域資金を地域の生業づくりに循環させる“お金の地産地消”を図るとともに、管理不十分な住宅・農地・山林等を地域共通の資産としてコミュニティが主体となって維持管理・有効活用する仕組みについて検討を行う。

ネット社会において地域全体で青少年を守り育てる環境整備のあり方

スマートフォン等の急速な普及により青少年のネット依存や犯罪被害などの問題が発生している。このため、実態把握のためのアンケート調査の詳細分析やオフラインキャンプ（ネットから離れて自然体験等を行うキャンプ）の効果検証等により、青少年が安全かつ安心してインターネットを利用できる社会を構築するための政策や事業展開を検討するとともに、青少年向けのネット依存傾向判定尺度の開発を行う。

21世紀文明シンポジウム

「減災と創造的復興～熊本地震の経験と教訓を踏まえて」
を開催

当機構と朝日新聞社、東北大学災害科学国際研究所は、防災・減災や復興をテーマにした「21世紀文明シンポジウム」を平成28年度から5年間、共同開催する協定を締結しています。その第1回となるシンポジウムを2月10日（金）、主催三者と熊本日日新聞社の共催によりテルサホール（熊本市）で開催しました。約500人の参加のもと、地震や火山活動のリスクに対する理解を深めるとともに、熊本地震における復旧・復興の取り組みや課題を踏まえ、災害による被害を最小化し、時代を先取りした復旧・復興につなげるにはどうすべきか議論し、全国にも発信しました。

基調講演で登壇した平田直氏（東京大学地震研究所地震予知研究センター長・教授）は、「最近の地震火山活動と熊本地震災害」をテーマに、わずか28時間で震度7が2回続いた熊本地震と同程度の地震は日本中どこでも起こり得ることを指摘し、「被害を軽減するため、建物の耐震化と出火防止、津波からの早期避難、地域防災力の強化が必要である」と述べました。また、地震発生から1分間は身を守ることに専念し、揺れが2分以上続いたら津波の危険性を考えるといっ

た、災害から生き残るための術を一人一人が学ぶことが防災力向上につながることを強調しました。

続いて、蒲島郁夫氏（熊本県知事）の基調報告では、地震災害に対応するためには財政の健全性が重



要であることを指摘した上で、「被災地の首長として、熊本地震からの1日も早い復旧・復興が使命であり、もとの姿に戻すだけでなく、安全・安心に貢献する創造的な復興を目指し、熊本のさらなる発展につなげたい」との決意表明がありました。さらに、「熊本地震での経験を成功も失敗も発信することで、全国の災害対応力の強化に寄与するとともに、被災地が創造的復興を果たすことで、日本全体の経済成長の原動力にしていかなければならない」と述べました。

現地レポートでは、朝日新聞社の東野真和氏から、自らの取材活動を通じて感じた熊本地震と東日本大震災の被災地の比較と復興等についての報告、また、益城町出身で自ら被災しながら報道に携わった熊本日日新聞社の浪床敬子氏による益城町の被害状況、避難所取材や復興課題などに関する報告があり、聴衆の共感を集めました。

後半のパネルディスカッションでは、西村博則氏(益城町長)が被災状況の説明とともに、「10年、20年後などの将来を見据えたまちづくりを行うには厳しい道となりとなるからこそ、復興計画に住民の声や思いを反映させたかった」との思いを語り、住民意見交換会を21回開催し、延べ1,600人の参加を得て復興計画を策定したことを紹介しました。

松田泰治氏(熊本大学減災型社会システム実践研究教育センター長)は、益城町では旧耐震設計以前の古い木造住宅の半分近くが倒れた一方で、新々耐震設計(平成12年6月以降)の住宅の被害が非常に少なかったことを報告し、「必ず耐震診断を受け、補助制度を活用して耐震補強を考えてほしい」と強調しました。

今村文彦氏(東北大学災害科学国際研究所所長)は、東日本大震災の記憶が薄れ、教訓が忘れ去られつつあるため、どう伝承していくかが課題であることを指摘しました。その上で、「世代を超えた伝承のためには、お祭りなど日々の生活の中に溶け込ませるためのさまざまな仕掛けが必要だ」と訴えました。



東日本大震災で被災して熊本県和水町に親子3人で移住した柳原志保氏(防災司団K-plus副代表)は、家族形態や仕事など人それぞれの事情に応じて、日常生活の延長線上でできる災害の備えを提案してきた自らの活動を紹介し、「二つの地震を経験した者として、人に伝えて、備えてもらい、教訓を次世代につなげることが使命と思っている」と述べました。

討議では、他府県などからの受援の在り方について、蒲島氏は「プッシュ型受支援は役に立ったが、受援体制が整わず、支援する側が受援側の忙しさなどを考えて届けることも必要」と指摘しました。また、西村氏は受援体制が整備できておらず物資受け入れを断ったことや、外部からの有能な人材をうまく活用できなかった反省を踏まえて、「今後は備蓄倉庫の確保や民間業者との協定など事前対策を講じる必要がある」と語りました。

最後に、総括として、コーディネーターの御厨貴氏(当機構研究統括)が「歴史をさかのぼると日本で地震は繰り返し起きており、阪神・淡路大震災以降、常態化していると言える。防災、災害対策は特殊な問題ではなく、この国の普遍的問題となった。誰もが自分のこととして捉え、明日には地震が起きると想定して、自分に何ができるのかを考えてほしい」と締めくくり、シンポジウムを終了しました。

基調講演

平田 直 東京大学地震研究所地震予知研究センター長・教授

基調報告

蒲島 郁夫 熊本県知事

現地レポート

東野 真和 朝日新聞社編集委員
浪床 敬子 熊本日日新聞社社会部付編集委員

パネリスト

今村 文彦 東北大学災害科学国際研究所所長・東北大学副理事(震災復興推進担当)
蒲島 郁夫 熊本県知事
西村 博則 益城町長
松田 泰治 熊本大学減災型社会システム実践研究教育センター長
柳原 志保 防災司団K-plus副代表

コーディネーター

御厨 貴 当機構研究統括・東京大学名誉教授

兵庫県立美術館

特別展「怖い絵」展

美術書として異例のベストセラーとなった中野京子氏の『怖い絵』に着想を得た本展は、氏を取り上げた作品をはじめ、18～19世紀のヨーロッパ絵画から「怖い絵」を選び出し、「神話」「現実」「歴史」といったテーマごとに紹介します。視覚的に直接怖さが伝わるものから、歴史的背景を知ること初めて怖さが発生するものまで、絵画に表現されたさまざまな恐怖を楽しめます。

■会期＝7月22日(土)～9月18日(月・祝)

■観覧料＝一般1,400円、大学生1,000円、70歳以上700円、高校生以下無料



ポール・ドラローシュ《レディ・ジェーン・グレイの処刑》1833年 油彩・カンヴァス ロンドン・ナショナル・ギャラリー
Paul Delaroche, The Execution of Lady Jane Grey, © The National Gallery, London. Bequeathed by the Second Lord Chylesmore, 1902

県美プレミアムⅡ

小企画「美術の中のかたち―手で見る造形 青木千絵展 漆黒の身体」



青木千絵《BODY 10-1》(部分) 2010年

本展は、目の見えない方の美術鑑賞の場となり、目の見える方にも鑑賞のあり方を考えていただく機会となることを目指しています。28回目を迎える今年は、漆を素材として身体を表現する青木千絵さんの作品を展示。身近な素材とかたちを、作品に触れて鑑賞できます。

特集「みなと物語 新収蔵品を交えて」

兵庫県立美術館の特徴として、神戸港に程近いウォーターフロントに位置することがあげられます。今年は神戸開港150周年でもあり、「みなと」にちなんだ展覧会を開催します。「みなと」には、船着き場や船路(ふなみち)、水の出入り口、人や物の集まる所、行き着く所といった意味があり、これらの語意を手がかりに、新しく収蔵された作品とともに多彩なコレクションをお楽しみください。

■会期＝10月15日(日)まで

■観覧料＝一般500円、大学生400円、70歳以上250円、高校生以下無料 ※障がいのある方とその介護の方1人は無料



星襄一《王の樹》1976年

◎休館日＝月曜

◎開館時間＝10時～18時(特別展開催中の金曜・土曜は20時まで)

※入場は閉館の30分前まで

TEL 078-262-0901(代) <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

JICA関西

◆食べることから始める国際協力!

JICA関西食堂の月替りエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでもご利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。大好評の月替りエスニック料理の8月はシリア料理です!ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。

こちら→ <http://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>

■営業時間＝(昼)11時半から14時まで (夜)17時半から21時まで

※各終了30分前ラストオーダー



写真は7月のブータン料理

◎申し込み・問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西国際センター)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

TEL 078-261-0341(代) FAX 078-261-0384

Eメール jicacsic-event@jica.go.jp <http://www.jica.go.jp/kansai/>

日本赤十字社 兵庫県支部

赤十字の講習のご案内～「もしも」に備える～

急病や不慮の事故から自分の身を守り、大切な人のいのちを救うための正しい基礎知識と技術を身に付けませんか。

日本赤十字社では、万一の病気がけが、災害などに備え、人命を救う方法や健康で安全に暮らすための知識や技術を伝える講習を行っています。

◆救急法基礎講習

9月23日(土・祝)

◆救急法基礎・救急員養成講習(3日間セット)

9月24日(日)・30日(土)・10月1日(日)

10月7日(土)・8日(日)・9日(月・祝)

◆科目別講習(講習の一部のテーマを短時間で習得できます)

・健康生活支援講習「災害が起こった時にあなたが

支援できること～災害時高齢者生活支援講習～」

10月14日(土)10時～12時

・幼児安全法講習「災害時の乳幼児支援」

10月15日(日)10時～12時

・幼児安全法講習「乳幼児の一次救命処置」

10月15日(日)13時～15時

その他にも講習があります。詳しくはホームページをご覧ください。



活動資金にご協力をお願いします

いのちと健康を守る赤十字活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金で成り立っています。

■ご協力方法(郵便局・ゆうちょ銀行の場合)

口座記号番号 01110-0-1136

口座加入者名 日本赤十字社兵庫県支部

※窓口で取り扱いは、振込手数料は無料です

◎問い合わせ

TEL 078-241-8921

赤十字 兵庫 検索



あった、あった、ここや。
えらい大きい会社やなあ、ドキドキしてきたわ。

あかん、鎮まれ心臓
営業マンに弱気は禁物、最初が肝心や。

初めて出会った
人と人との

つながり。

それが、
わたしたちのしごとです。

「はじめまして。カワサキと申します」
名刺を交換したらお付き合いの始まり。
小さな紙片からどれだけ仕事広がるか、
さあ、ガンバルぞお～!

研究戦略センター

「ひょうご講座2017」開催のご案内

21世紀文明を切り拓く高度な研究成果や専門的知識を得たいという学習ニーズに応えるため、当機構のネットワークを活用し、テーマ性を明確にした大学教養レベルの連続講座を開講します。

数ある生涯学習講座の中でも、特に一つ分野を掘り下げて幅広い視点から考察するのが本講座の特徴です。本年度は、当機構ならではの5分野において、時代の潮流を踏まえたテーマで実施します。

なお、本年度から、「21世紀文明研究セミナー」(当機構をはじめHAT神戸の研究機関の研究成果等に関するセミナー)を統合し、対象分野などをリニューアルしています。

■講座概要

▶分野等

分野名	開講時期
防災・復興—迫り来る南海トラフ地震に備える	9月12日(火)～11月28日(火)
地球環境—地球温暖化を前に私たちは何をなすべきか	9月13日(水)～11月29日(水)
地域創生—人口減少・高齢社会下の地域づくり	9月12日(火)～11月14日(火)
国際理解—混迷する国際情勢を読み解く	9月15日(金)～12月1日(金)
政治・経済—人口減少時代の国家・社会像を探る	9月14日(木)～11月20日(月)

- ▶回数=10回(1分野)
- ▶時間=平日の18時30分～20時
- ▶受講料=1万5,000円(1分野)
- ▶定員=約40人(1分野)
- ▶場所=兵庫県民会館(神戸市中央区下山手通4-16-3)
- ※各分野の開講日等詳細については、後記「ひょうご講座」ホームページでご確認ください。

<<内容の紹介>>

防災・復興—迫り来る南海トラフ地震に備える

日本列島は災害多発時代を迎えたといわれる中、今後30年以内の発生確率が70%程度とされる南海トラフ地震の発生が懸念されています。南海トラフ地震は、死者が最大で32万人を超えると想定されるなど、広域にわたり大規模な被害をもたらす点で国難ともなり得る災害です。また、それに先立ち内陸直下型地震が頻発する可能性もあります。一方で、津波避難の徹底や耐震化をはじめハード・ソフトの対策を講じることにより、被害を大幅に減らすこともできます。地震のリスクや被害を正しく理解し、いかに備えるべきか、安全安心な減災社会の実現に向けた方策について学びます。

地球環境—地球温暖化を前に私たちは何をなすべきか

世界の平均地上気温は、1880(明治13)年から2012(平成24)年までの間に1℃近く上昇しています。これは、化石燃料の消費など人間の活動に伴う温室効果ガスの排出増によるところが大きいと考えられます。地球温暖化の影響は、生物活動の変化や、水資源や農作物への影響など、自然生態系や人間社会にすでに現れています。将来、地球の気温がさらに上昇すれば、より深刻な問題が生じると予測されています。地球温暖化の現状と私たちの暮らしにもたらす影響を多面的に検証するとともに、持続可能な未来社会を切り拓くために、私たち一人ひとりが今、何をなすべきかを学びます。

地域創生—人口減少・高齢社会下の地域づくり

少子高齢化の進展や人口減少、東京一極集中の是正などの構造的な課題に対応し、将来にわたり持続可能な地域社会を構築するため「地域創生」の取り組みが進められています。若者から高齢者まで全ての人が、それぞれの居住地域で生涯にわたり豊かな暮らしを送るには、何が求められるのか。これからの活力ある地域づくりのあり方について、実践事例も交えながら学びます。

国際理解—混迷する国際情勢を読み解く

最近の国際情勢は混迷の度を深めています。東アジアでは朝鮮半島が緊張の度合いを高めるとともに、南シナ海や東シナ海をめぐる各国の主張が対立しています。アメリカではいわゆるトランプ現象に象徴されるように社会の分断、格差の拡大などが顕在化しています。ヨーロッパでは難民問題に端を発し、英国のEU離脱通知、ポピュリズムの伸長などが生じています。中東ではISやシリアをめぐる問題など不安定な状況が続いています。グローバル化がもたらす光と影など今日の国際社会を取り巻く諸課題を明らかにするとともに、今後のあるべき国際関係について考えます。

政治・経済—人口減少時代の国家・社会像を探る

少子高齢化が進む中、経済の低成長時代が続く一方、社会保障費の

増大が財政を圧迫するなど厳しい経済財政運営を迫られています。第4次産業革命ともいわれるテクノロジーの進展を前に、これまでの発想を転換し、新たな製品やサービスを開発するなどわが国の強みを生かすとともに、女性や高齢者も活躍できる社会づくりなど活力ある未来を構築することが強く求められています。持続可能な社会に向け、これからの国家戦略や経済財政運営について考えます。

■募集締め切り

9月5日(火)必着(インターネット、FAX、郵送で受け付け)ただし、先着順に受け付け、定員になり次第締め切ります。

●申し込み・問い合わせ

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
研究戦略センター 交流推進課 ひょうご講座担当
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
人と防災未来センター東館6階
TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122
<http://www.hyogo-al.jp/kouza/>

ひょうご講座 検索



兵庫県こころのケアセンター

平成29年度第1期「こころのケア」研修の受講生募集

「こころのケア」に携わる保健・医療・福祉・教育等の分野で活動されている方を対象に、各種課題への対処法等について学ぶ「専門研修」を実施します。

9月から11月にかけて実施する研修の受講生を次のとおり募集しています。ぜひご参加ください。

▶研修概要

区分	コース名	期間	定員	対象	受講料(資料代等)
専門研修	①DV被害者のこころのケア	9/20(水)	35人	母子自立支援員、女性相談員(婦人相談員)、婦人保護施設職員、母子生活支援施設職員、家庭問題相談員、保健師、福祉事務所職員、こども家庭センター(児童相談所)職員等DV被害者相談支援関係職員	2,500円
	②悲嘆の理解と遺族への支援	9/27(水) 28(木)(2日間)	35人	医療・保健・福祉・心理臨床の分野で活動する者、遺族支援に携わる者	3,500円
	③被災者や被害者をささえるために—サイコロジカルファーストエイドを学ぶ—	10/5(木) 6(金)(2日間)	25人	学校・社会福祉協議会・病院等の精神保健福祉関係者、保健師	4,000円
	④犯罪被害とこころのケア	10/12(木) 13(金)(2日間)	25人	保健・医療・福祉・教育・司法・警察・消防関係等職員	4,000円
	⑤被害者や被災者の中長期の回復を支えるこころのケア—サイコロジカル・リカバリースキル(SPR)—	11/ 9(木) 10(金)(2日間)	35人	医師、臨床心理士、看護師、保健師、精神保健福祉士、その他関連領域の関係者	3,500円

▶場所=兵庫県こころのケアセンター(阪神「春日野道」駅から南へ徒歩約8分)

▶申し込み方法=受講申込書(※)に必要な事項を記入の上、郵送、FAX、Eメールで下記までお送りください。申込者多数の場合は、各研修開始日の1か月前(前月の同じ日)の17時を期限として、初めて受講の方を優先の上、抽選で決定します。

※当センターホームページからダウンロードできます

●申し込み・問い合わせ

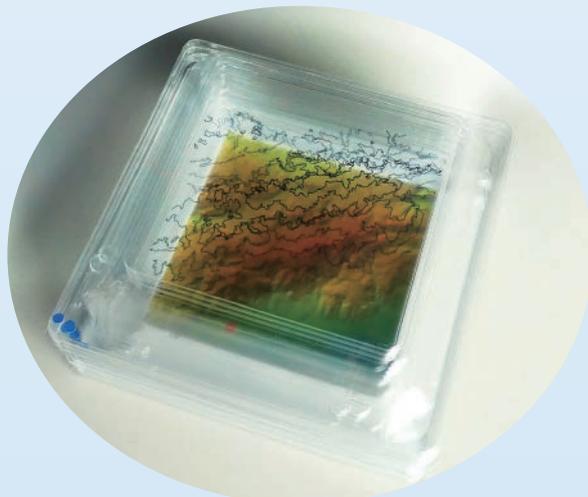
兵庫県こころのケアセンター 研修情報課
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017
Eメール kensyu@j-hits.org
<http://www.j-hits.org/>

「夏休み防災未来学校2017」を開催中

人と防災未来センターでは、子どもから大人まで楽しみながら防災・減災について学ぶことができる「夏休み防災未来学校2017」を7月22日(土)から8月31日(木)まで開催しています。

昨年度も好評を得た「ロープワークでミサガをつくろう!」や「地震サイエンス2017 地球の中のふしぎを発見!」のほか、いざというときに役立つ軽くてコンパクトな履き物を作る「携帯できるソフトシューズを手作りしよう」や、災害が発生したときに避難所がどのような状態になるのかを考え、それぞれが担う共助について学ぶ「リアルHUG 避難所はどこどこ? ワークショップ」、当センター研究員が講師を務める「3D!? 六甲山の立体地図をつくろう!」など新しいプログラムも多数実施します。内容や日時、参加申込方法など詳細はウェブ(<http://hitobou.com/event/summer/>)で公開しています。

無料観覧日の8月17日(木)には、事前申し込みなしでも参加できる特別プログラム「ストロー建物ver.2 ストローだけで!? つくろう!SP」のほか、西館5階資料室では「防災ゲーム本気あそび」、西館ロビーでは「六甲山の災害展2017」「ミニミニ展示 こども0次 減災グッズ展」を開催しています。この機会に、館内見学と併せてさまざまなプログラムに、ぜひ参加してください。



3D!? 六甲山の立体地図をつくろう!



携帯できるソフトシューズを手作りしよう



リアルHUG 避難所はどこどこ? ワークショップ

平成29年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」を実施

学校や地域において、防災学習に主体的に取り組む児童・生徒等の先進的な活動を顕彰する1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」を兵庫県・毎日新聞社と共催で実施します。応募していただいた中から優秀な活動を選考し、平成30年1月7日(日)に兵庫県公館で表彰式・発表会を開催します。



小学生部門・ぼうさい大賞の阿南市立津乃峰小学校



平成28年度グランプリを受賞した高知県立須崎高等学校



平成28年度の受賞者

【対象部門】

①小学生 ②中学生 ③高校生 ④大学生
※自主防災組織・NPO等からも各部門に応募できます

【対象活動】

自然災害から命と暮らしを守るための防災教育や防災活動の取り組み。応募は学校、クラス、サークル活動、ボランティア活動、地域などの単位で。
※他薦歓迎

【対象期間】

平成28年10月1日～30年3月31日
(活動予定も含む)

【応募締め切り】

平成29年9月30日(土)(消印有効)

【応募方法】

下記のURLの申し込みフォームから応募、または応募用紙をダウンロードの上、郵送してください。
<http://npo-sakura.net/bousai-koushien/>

【応募用紙の配布】

下記の機関で配布しています。
・兵庫県復興支援課
TEL 078-362-9984
・(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
人と防災未来センター事業部事業課
TEL 078-262-5068

【応募先】

〒663-8201
西宮市田代町16-8 パルティーレN棟西号室
ぼうさい甲子園事務局 (特非)さくらネット
TEL 0798-64-5829
Eメール bousai_koushien@yahoo.co.jp

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

開館時間

9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)
※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)
※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

入館料金

大人	大学生	高校生／小・中学生
600円(450円)	450円(350円)	無料
[障がい者]		
大人	大学生	高校生／小・中学生
300円(100円)	200円(50円)	無料
[70歳以上の高齢者] 300円(200円)		

※()は20人以上の団体料金
※毎月17日(休館日の場合は翌18日)は入館無料

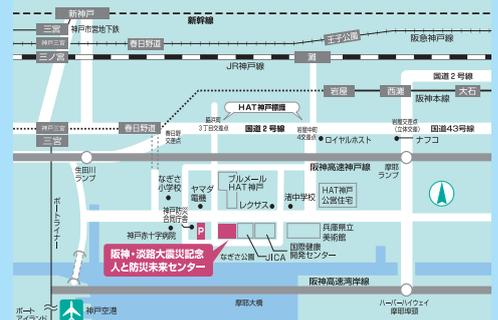
休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月5日まで)は無休
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

- 鉄道**
- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
 - ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
 - ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分
- バス**
- ・三宮駅前から約15分
- 車**
- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
 - ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
 - ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



平成29年度春期 災害対策専門研修マネジメントコースの実施結果

人と防災未来センターでは、地方自治体職員などを対象とした「災害対策専門研修」マネジメントコースを平成14年度から実施しています。このコースは、災害対策実務の中核を担う人材の育成を目的とし、阪神・淡路大震災の教訓を学習することを重点としつつ、最新の研究成果も取り入れ、能力に応じた体系的、実践的なカリキュラムとなっています。平成28年度までに2,614人が受講し、全国の自治体等から高い評価を得ています。春期研修においては、ベーシック、エキスパートA及びエキスパートBの3コースを実施しました。

ベーシックでは、防災経験年数の浅い職員を対象に、災害の発生に関する理論や阪神・淡路大震災の経験を踏まえた災害対策のあり方など、基礎的な事項についての体系的な講義や、センターの資料展示を活用した演習などを実施しました。復興まちあるきでは、野島断層保存館を視察し、阪神・淡路大震災の被災地での復興過程とさまざまな取り組みを学びました。

エキスパートA及びエキスパートBでは、中堅職員を対象として、大規模災害発生時に、さまざまな現象が同時並行的に発生する状況を横断的・総合的に捉え、これに対処する能力を向上させることを目的とし、目標管理型災害対応の考え方を身に付ける演習や災害時要配慮者への対応をテーマとした講義などを行いました。

研修終了後のアンケートでは、「防災担当者として必要最低限の知識は身に付いた。今後、地域防災計画の見直し等に生かすとともに、職場でも伝えることで防災意識の向上を図る」「目標管理型災害対応のやり方、良さが分かった」「災害対応ばかりに注目していたが、被災者行政をしっかりとしないと制度の狭間に取り残される人が生じることに気付かされた」等の意見が寄せられました。さらに、受講者間の交流を通じて防災担当者の全国的なネットワークが一層強まりました。



エキスパートA 市民社会ワークショップ(6月7日)



エキスパートB 集合写真(6月13日)



ベーシック 「地域防災計画論」の講義(6月21日)



ベーシック 復興まちあるき(6月22日)

コース名	日程	参加人数	修了者
エキスパートA	6月6日(火)～9日(金)	28人	27人
エキスパートB	6月13日(火)～16日(金)	28人	28人
ベーシック	6月20日(火)～23日(金)	50人	50人
合計(延べ)		106人	105人



Hem21NEWS
vol.64

平成29年7月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<http://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

● **管理部**

TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

● **研究戦略センター**

▶ **研究調査部**
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

● **人と防災未来センター**

TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

▶ **学術交流部**

TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

● **こころのケアセンター**

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・
ご感想を機構までお寄せください